

人材育成指標 改定のポイント

教職の素養

- 教職の素養については、教職員生活を通じて常に磨き続ける資質・能力であるという捉えから、キャリアステージを貫く姿として設定しました。
- 人権感覚及び多様性の尊重については、本市がこれまで大切にしてきた人権尊重の精神を基盤とする教育活動の推進を踏まえるとともに、児童生徒にとって自分自身が最大の教育環境であるという自覚を常にもち続けることが求められているため、今回の改定では強調して表記しました。

専門性

- 日々の教育活動の中で、児童生徒一人ひとりの豊かな成長を支えていくために、特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもを深く理解することは欠かせません。また、児童生徒との関わりや健康課題への対応において、養護教諭の専門性を高めていくためにも、子どもを深く理解することが大切です。横浜市では、これまでも「子ども理解」を教職員の専門性を支える土台に据えてきましたが、よりよい指導や支援においては、一人ひとりの子どもの実態に応じる必要があることから、「特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解」と表記しました。
- 「健康相談及び保健指導」については、健康相談等を踏まえた保健指導という捉えから、一連の対応の中で養護教諭の専門性を発揮しながら、校内外の組織と連携した児童生徒の健康課題への対応を強調して表記しました。
- 「専門領域におけるICTの活用」については、ICTに関する基礎的・基本的な技術の習得を基盤に、健康情報のデータ（健康診断結果、健康観察結果等）を把握・分析し、保健管理及び保健教育に活用するなどして、データを根拠にしながら、組織的に健康課題に取り組む姿を想定して設定しました。
- 「児童生徒理解に基づいた指導・支援」は「生徒指導提要」に基づき整理しました。「発達支持的生徒指導」や「課題予防的生徒指導」の充実が生徒指導上の諸課題の未然防止や再発防止につながることを捉え、先手型の常態的・先行的生徒指導を実践していくことの大切さを示しました。

マネジメント

- 「学校づくり」の視点に「カリキュラム・マネジメントの推進」が加わりました。この力は保健室経営とも密接に関わるため、学校教育目標の実現に向けて、教育課程の実施・評価・改善の一連の流れを、保健室経営計画と紐付けていくことが大切になります。
- 「危機管理」については、安全配慮や健康安全に関する研修の実施において、養護教諭の専門性を発揮しながら、教職員と連携した学校の体制づくりを構築していく姿を想定し、設定しました。
- 「教育課題に関する対応」については、時代や社会の潮流を読み解き、教育の方向性を的確に捉え、横浜市の教職員としてより一層理解を深め、教育活動に生かしていくことが大切になります。

自分らしく「なりたいわたし」になる

急激に変化する時代において、子どもたちの成長を担うわたしたち教職員にとって、「学び続ける姿勢」がより一層重視されています。今回、人材育成指標の改定では、横浜市の教職員として身に付けるべき資質・能力をキャリアステージごとに示しました。子どもたちのために自らの力を高めることは、教職員としての自身のキャリアを積み重ねることにつながります。人材育成指標を活用し、教職員としてのキャリアデザインをより具体的に描きましょう。そして、その実現に向けてセルフ・マネジメントを通して主体的に学び続け、資質・能力の向上を図りましょう。

主体的なキャリアデザイン

児童生徒同様、わたしたち教職員も多様な存在です。一人ひとりが自らの専門性を高め、強みを存分に発揮していくことが求められます。そのためにも、これまでの児童生徒や保護者との関わりや様々な経験を通して、どう成長したのかを見つめ、これからの目指す姿、そのためにすべきことは何かを考えた上で歩んでいくことが大切です。自分を作るのは自分です。「教職員としてどう在りたいのか。」日々の教育活動の中で、節目節目で立ち止まり、自分自身へとベクトルを向けて考えてみましょう。



学び合う教職員集団

「教職員の学びは児童生徒の学びと相似形」と言われています。校外研修や自己研鑽による個人の学びに加え、現場の経験も含む同僚との対話や振り返りの機会など、協働的な学び合いが資質・能力の向上には欠かせません。キャリアステージの変化とともに、自己の成長に加えて仲間の成長を支援する役割も増えていきます。校内外の人材育成に取り組む中で、更に身に付けるべき資質・能力が明確になり、自分自身も更に成長することでしょう。児童生徒のロールモデルとして、学び合う教職員集団の構築を目指しましょう。



* 養護教諭・主幹教諭(養護) キャリアステージ一覧 *

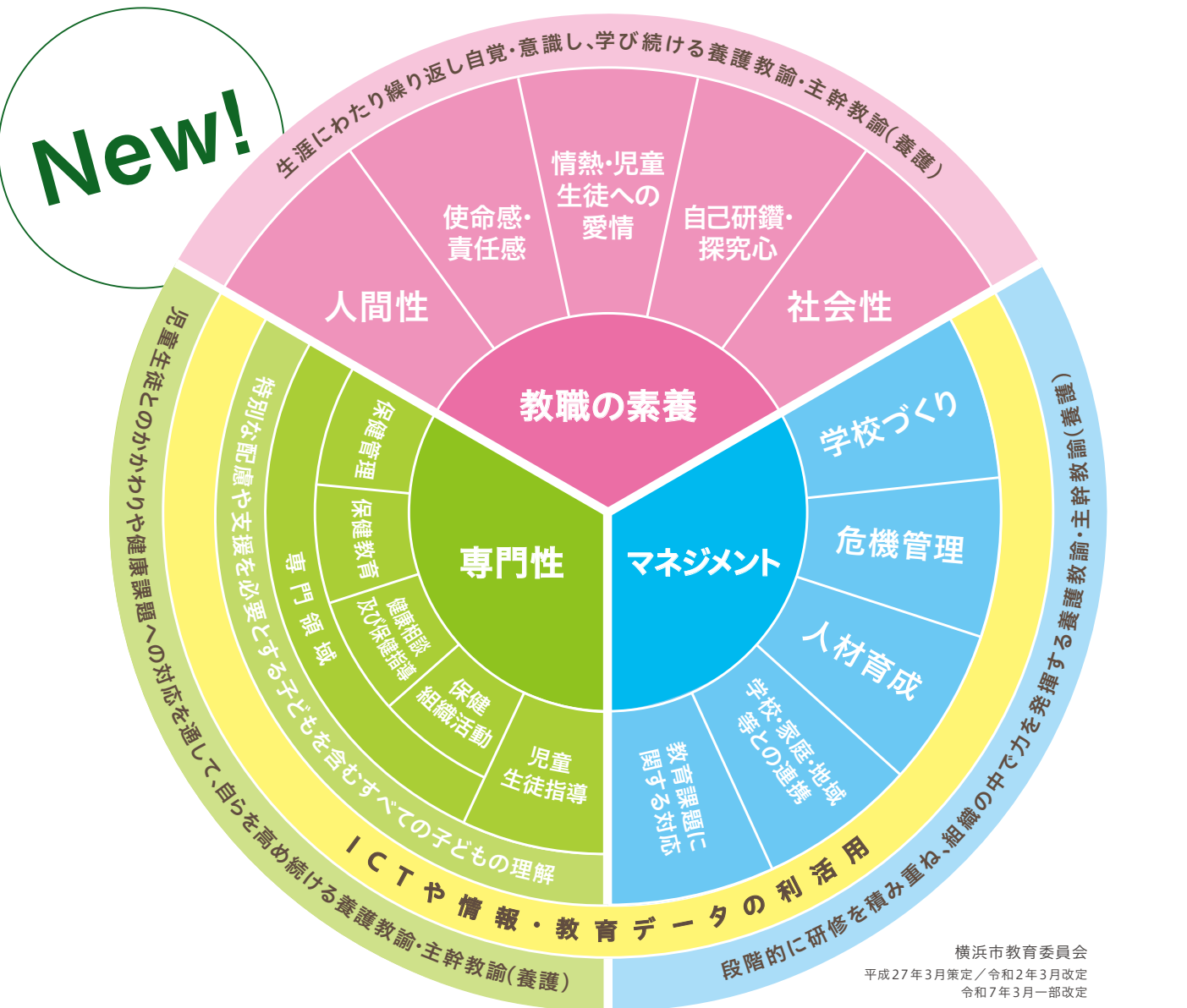
	えがく 着任時の姿	つくる 第1ステージ	たかめる 第2ステージ	みがく 第3ステージ	主幹教諭 (養護)
	自己の成長・自己開発の視点			チーム学校の一員としての視点	
各ステージの説明	学び続ける姿勢をもち、教職に対する志を高めるステージ	養護教諭として、資質・能力の基盤をつくるステージ	児童生徒との関わりや健康課題への対応を通して自己の資質・能力、チーム力を高めるステージ	高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高めるステージ	学校運営の中核となり、広い視野をもち、校内外をマネジメントするステージ
それぞれのステージで求められる姿	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら学び 社会とつながり」として未来を創る人」を幅広くむくために、養護教諭に求められる基本的な知識を学ぶとともに、児童生徒一人ひとりに寄り添い、支えようとする姿 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭として必要な基本的な事項について幅広く学び、自己の強みや弱みを捉え、資質・能力を高めている姿 チーム学校の一員としての役割について、責任をもって果たそうとしている姿 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒との関わりや健康課題への対応を通して自己の資質・能力を高めている姿 自己の資質・能力を磨き続け、職務分掌等において、中核的な存在としてチーム力の向上や人材育成に取り組んでいる姿 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を発揮しながら人材育成に取り組む、多面的・多角的な視点から組織的な学校運営を推進している姿 学校教育目標の実現に向けて、主幹教諭としての自覚と責任をもち、マネジメントを行っている姿 	

改定します! 養護教諭・主幹教諭(養護)版

横浜市 人材育成指標【養護教諭・主幹教諭(養護)版】

【養護教諭・主幹教諭(養護)版】はここが変わります!

- 経験や役割によるキャリアステージを意識して、目標設定や現状把握を行います。
- これまでも重視してきた「子ども理解」がより重視されます。
- 専門性やマネジメントを高める上で「ICTや情報・教育データの活用」を進めることが求められます。



わたしを育てる わたしが育てる

作成・編集：横浜市教育委員会事務局 教職員育成課 健康教育・食育課 横浜国立大学教職大学院 令和7年3月発行

横浜市 人材育成指標【養護教諭・主幹教諭(養護)版】

この表は、横浜市の養護教諭・主幹教諭(養護)が身に付けるべき3つの資質・能力と、それらを構成する要素及び要素を捉える視点を示しています。今回の改定では、本市がこれまでも指標に位置付けていた「子ども理解」をより重視し、日々の教育活動の中で、子どもたち一人ひとりの豊かな成長を支えていくために「特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解」と表記しました。また、これからの学校教育においては、「ICTや情報・教育データの活用」の視点を踏まえることが大切であることから、「専門性」「マネジメント」をより効果的に行うための視点として位置付けています。

目指す姿	資質・能力	要素	視点
学び続ける姿勢をもち、自ら高め続ける養護教諭・主幹教諭(養護)	教職の素養	人間性	<ul style="list-style-type: none"> ●教育に関する理念 ●倫理観 ●共感する力・受け止める力 ●人権感覚 ●多様性の尊重
		使命感・責任感	<ul style="list-style-type: none"> ●教育公務員としての使命感 ●教育公務員としての責任感
		情熱・児童生徒への愛情	<ul style="list-style-type: none"> ●教育的愛情 ●誇りと情熱
		自己研鑽・探究心	<ul style="list-style-type: none"> ●向上心 ●創造力 ●課題発見・解決能力 ●自己省察
		社会性	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーション能力 ●人間関係構築力 ●市民意識 ●信頼
児童生徒との関わりや健康課題への対応を通して、自ら高め続ける養護教諭・主幹教諭(養護)	専門性	保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ●健康観察、健康診断等の保健管理の実施と健康情報の管理 ●救急処置の実施と組織体制の整備
		保健教育	<ul style="list-style-type: none"> ●保健安全教育への参画 ●教職員と連携した保健安全教育的実施 ●ICT機器使用による健康面への影響等の理解や対応
		健康相談及び保健指導	<ul style="list-style-type: none"> ●健康相談及び保健指導の理解と実施 ●いじめ・虐待等への対応 ●組織的な対応の推進・関係機関等との連携
		保健組織活動	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒主体の保健組織活動の推進 ●教職員等と連携した保健組織活動の推進
		専門領域におけるICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●健康情報のデータ及びICTの活用
組織の中で力を発揮する養護教諭・主幹教諭(養護)	マネジメント	学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●発達支持的生徒指導 ●課題予防的生徒指導 ●困難課題対応の生徒指導
		危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な教育的ニーズ(不登校、外国につながる児童生徒、苦しさを抱えている児童生徒、医療的ケア等)に対応した教育の推進 ●特別支援教育の推進
		人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●学校経営への参画 ●組織づくりの推進
		学校・家庭・地域等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●学校保健活動のセンター的役割を果たす保健室経営 ●カリキュラム・マネジメントの推進
		教育課題に関する対応	<ul style="list-style-type: none"> ●安全配慮義務 ●健康安全に関する校内研修の実施 ●コンプライアンス ●労務管理 ●メンタルヘルス

キャリアステージ	
○キャリアステージは採用時からの経年数で一律に捉えるのではなく、採用前の経歴や個人の資質・能力、チーム学校の一員として求められる役割等が考慮されています。	
○目安として、第1ステージは「新任から横浜型初任者育成研修受講済み」、第2ステージは「中堅教員研修を受講する前まで」、第3ステージは「中堅教員研修を受講済み」とします。	

えがく	
学び続ける姿勢をもち、教職に対する志を高める	

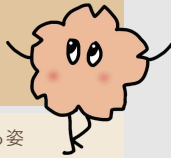
つくる	
養護教諭として、資質・能力の基盤をつくる	

たかめる	
子どもとの関わりや健康課題への対応を通して自己の資質・能力、チーム力を高める	

みがく	
高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高める	

みがく	
高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高める	

みがく	
高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高める	



着任時の姿	
横浜の求める教師像 <ul style="list-style-type: none"> 教育への使命感や、情熱をもち、学び続ける教師 「チーム学校」の一員として、ともに教育を創造する教師 子どもに寄り添い豊かな成長を支える教師 	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら学び 社会とつながりともに未来を創る人」をはぐくむために、養護教諭に求められる基本的な知識を学ぶとともに、児童生徒一人ひとりに寄り添い、支えようとする姿

第1ステージ	
<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭として必要な基本的事項について幅広く学び、自己の強みや弱みを捉え、養護教諭として資質・能力を高めている姿 チーム学校の一員としての役割について、責任をもって果たそうとしている姿 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒との関わりや健康課題への対応を通して資質・能力を高め、必要な資質・能力を磨こうとしている姿 身に付けた資質・能力を生かし、チームの一員として実践的指導力を発揮している姿

第2ステージ	
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒との関わりや健康課題への対応を通して資質・能力を高め、必要な資質・能力を磨こうとしている姿 身に付けた資質・能力を生かし、チームの一員として実践的指導力を発揮している姿 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、中核的な存在としてチーム力の向上や人材育成に取り組んでいる姿

第3ステージ	
<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、中核的な存在としてチーム力の向上や人材育成に取り組んでいる姿 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、中核的な存在としてチーム力の向上や人材育成に取り組んでいる姿

第3ステージ	
<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、中核的な存在としてチーム力の向上や人材育成に取り組んでいる姿 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、中核的な存在としてチーム力の向上や人材育成に取り組んでいる姿

各ステージの終了までに身に付けてほしい資質・能力を要素と視点ごとに示しています。一つ前のステージで身に付けた資質・能力については、次のステージに繰り返し記載していない場合がありますが、資質・能力は次のステージでさらに高め、磨いていくものであると捉えます。

資質・能力	要素	視点	資質・能力を身に付けている各キャリアステージの姿
教職の素養	人間性	<ul style="list-style-type: none"> 教育に関する理念 倫理観 共感する力・受け止める力 人権感覚 多様性の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のよりよい成長を目指し、横浜市の教職員として高い倫理観や教育理念をもって、教育活動に当たっている。／児童生徒や教職員、保護者、地域等の思いに共感し、多様な価値観を認め、真摯に受け止めている。／「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送るための基盤となる、人権に対する確かな知識と豊かな人権感覚を身に付けている。
	使命感・責任感	<ul style="list-style-type: none"> 教育公務員としての使命感 教育公務員としての責任感 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のよりよい成長のために誇りと情熱をもち、児童生徒一人ひとりを大切にすることができる。
	情熱・児童生徒への愛情	<ul style="list-style-type: none"> 教育的愛情 誇りと情熱 	<ul style="list-style-type: none"> 社会や環境の変化に対応し、自己研鑽に努め、学び続けようとしている。
	自己研鑽・探究心	<ul style="list-style-type: none"> 向上心 創造力 課題発見・解決能力 自己省察 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助言に耳を傾けつつ、自分の考えを適切に伝え、他者と協働して教育活動に取り組もうとしている。
	社会性	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力 人間関係構築力 市民意識 信頼 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助言に耳を傾けつつ、自分の考えを適切に伝え、他者と協働して教育活動に取り組もうとしている。

専門領域	専門性	ICTや情報教育データの活用	児童生徒指導	マネジメント	養護教諭(養護版)の目標												
					資質・能力	視点											
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察、健康診断等の保健管理の実施と健康情報の管理 救急処置の実施と組織体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察、健康診断、救急処置、疾病の予防・管理等の保健管理に関する基本的・基本的な内容を理解し、実践しようとしている。 日常の救急処置を的確に実施し、心のケアや学校全体で取り組むための組織体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察、健康診断(保健調査・事後検査を含む)及び疾病管理等を円滑に実施し、把握した健康情報を的確に管理している。 日常の救急処置を的確に実施し、心のケアや学校全体で取り組むための組織体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいた保健管理、健康情報の管理を的確に実施し、指導的な役割を果たしている。 日常の救急処置を的確に実施し、心のケアや危機管理について学校全体で取り組むための組織体制を整え、指導的な役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健管理の分野において、最新の知識・技術を取り入れるとともに、学校内外の資源を多面的・多角的に把握し、学校として効果的に連携・活用できるよう主体的に働きかけている。 												
						保健教育	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領及びICT機器使用による健康面の影響等を理解し、保健教育に必要な知識を有し、保健教育を実践しようとしている。 ICT機器使用による健康面の影響の理解や対応 	<ul style="list-style-type: none"> 保健安全教育における養護教諭の役割を考え、学習指導要領の理解と児童生徒の実態を把握し、教職員と連携した集団指導や個別指導を実施している。 ICT機器使用による健康面の影響を理解し、学習環境や使用時間等に配慮するなど、教職員と連携しながら組織的に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭の専門性を生かしながら、教職員と連携し、児童生徒の実態や学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」を実現する保健安全教育の展開や個別指導を効果的に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健安全教育の分野において、最新の知識・技術を取り入れるとともに、学校全体の授業力向上に向けて、教職員間で連携し、保健安全教育の充実に向けて教材等を活用できるよう、主体的に働きかけている。 							
											健康相談及び保健指導	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談及び保健指導の理解と実施 いじめ・虐待等への対応 組織的な対応の推進・関係機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談及び保健指導の基本的プロセスを理解し、児童生徒の実態と現代的な健康課題との関連を踏まえた必要な支援を効果的に実施している。 健康観察の結果や保健室利用状況等の児童生徒の情報を教職員と共有し、いじめや虐待等の早期発見・早期対応が組織的に実施できるように働きかけている。 児童生徒の心身の健康課題の解決に向け、校内組織を活用し、児童生徒の支援方針や支援計画を検討する等の組織的な対応を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の心身の健康課題の解決に向け、未然防止の視点を取り入れながら、健康相談及び保健指導を効果的に実施している。 児童生徒の情報を教職員と共有しながら、いじめや虐待等の早期発見・早期対応及び未然防止について指導的な役割を果たすとともに組織的に取り組めるように働きかけている。 児童生徒の心身の健康課題の解決に向け、関係者との連携・協働におけるコーディネーターの役割と役割における指導的な役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談及び保健指導の分野において、最新の知識・技術を取り入れるとともに、管理職やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等と連携し、学校の課題を捉え、組織的な解決に向けた取組を推進している。 		
																保健組織活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒主体の保健組織活動の推進 教職員等と連携した保健組織活動の推進
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> 健康情報のデータ及びICTの活用 発達支持的生徒指導 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用に関する基本的・基本的な技術を身に付け、個人情報に配慮しながら健康情報のデータを把握・分析し、保健管理や保健教育等に活用している。 全ての児童生徒に対し、一人ひとりの発達の過程をいかに支えるかという視点に立ち、日々の教育活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用しながら教職員や児童生徒へ発信し、自校の健康情報のデータを根拠に保健管理や保健教育等に組織的に取り組んでいる。 組織的に児童生徒理解を図るよう、周囲の教職員に働きかけたり、発達支持的生徒指導の充実に向けて、適切な指導・助言を行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健の分野において、学校全体でのICT活用に向けた取組を推進したり、教職員間で連携して仕組みを構築したりしている。 必要に応じて管理職及び校内の各組織や関係機関とも連携する等、組織的に児童生徒理解を図る仕組みを構築し、発達支持的生徒指導の充実を図っている。 													
					児童生徒理解に基づいた指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 課題予防的生徒指導 困難課題対応的生徒指導 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態把握に向けて、日々の観察や調査データ等を活用して情報収集し、課題を早期に発見するとともに、未然防止教育及び対応に取り組んでいる。 いじめ等の特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒の心情に寄り添い、一人ひとりで早期発見や即時対応に向けた報告・連絡・相談の重要性を理解し、協働的に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態把握に基づき、児童生徒の心身の健康課題の解決に向け、未然防止の視点を取り入れながら、健康相談及び保健指導を効果的に実施している。 児童生徒の情報を教職員と共有しながら、いじめや虐待等の早期発見・早期対応及び未然防止について指導的な役割を果たすとともに組織的に取り組めるように働きかけている。 児童生徒の心身の健康課題の解決に向け、関係者との連携・協働におけるコーディネーターの役割と役割における指導的な役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒の心情に寄り添い、より実効性のある早期発見や即時対応のために、学校の課題を捉え、組織的に解決し、継続的に支援できる仕組みを構築している。 								
										教育的ニーズに対応した指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教育的ニーズ(不登校、外国につながる児童生徒、あそびを促している児童生徒、医療的ケア等)に対応した教育の推進 特別支援教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりに寄り添い、尊重するとともに、安全・安心な風土を醸成し、豊かな成長を支えようとしている。 児童生徒の多様な教育的ニーズに対応するためのよりよい指導・支援について校内で共通理解を図り、連携しながら行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内組織や関係機関と連携し、教育的ニーズへのよりよい対応の視点から教育内容及び支援体制の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実に向けて、校内における特別支援教育の中心的な役割となり、管理職及び各組織と連携するとともに、学校全体に主体的に働きかけ、組織的な対応を行っている。 			
															学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営への参画 組織づくりの推進 学校保健活動のセンター的役割を果たす保健室経営 カリキュラム・マネジメントの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標の実現に向けて、組織の一員としての役割を認識し、日々の教育活動の中で責任を果たしている。 学校教育目標を理解し、保健室経営計画の作成・実施・評価・改善を行い、学校保健活動のセンター的役割を果たす保健室になるように努めている。 学校教育目標を踏まえ、児童生徒の実態に応じて教育課程の実施・評価・改善を意図した取組を行っている。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全配慮義務 健康安全に関する校内研修の実施 コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> 「チーム学校」の一員として自分ができることを考えながら学校運営に参画しようとしている。 養護教諭の職務及び役割を理解し、計画的・組織的な保健室経営に取り組む姿勢と学校保健活動のセンター的機能を果たす保健室の役割を理解している。 教職員としての高い倫理観と規範意識に基づいて、コンプライアンスについて理解し、不祥事絶絶の意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生的に安全に配慮した校内環境整備とともに、事故発生、アレルギー、感染症等の情報について、管理職への迅速な報告・連絡・相談を行い、適切に対応している。 教職員と連携した事故発生時の対応や未然防止につながる健康安全に関する校内研修を計画的に実施し、養護教諭の専門性を生かした助言をしている。 コンプライアンスを常に意識し、自らが職務の規律を遵守するとともに、チームの一人ひとりに目を向け、不祥事絶絶等の重要性を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なコンプライアンスの意識を高める対策を自ら講じるとともに、学校組織全体に目を向け、コンプライアンスの意識を日々高めていく重要性を伝えている。 教職員と連携した事故発生時の対応や未然防止につながる健康安全に関する校内研修を計画的に実施し、指導的な役割を果たしている。 													
					人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 労務管理 メンタルヘルス セルフマネジメント 教職員同士の学び合い 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な学校をつくる意義を理解し、危機や課題が発生した場合に組織の一員として適切に対応しようとしている。 自らのキャリアデザインを描き、自己分析に応じて研修や研究会等を活用するとともに、校内外の教職員と協働して資質・能力の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持・増進に向けて、ICT等を活用した自身の業務改善及びメンタルヘルスクアを行うっている。 自らのキャリアデザインを描き、自己分析に応じて研修や研究会等を活用するとともに、校内外の教職員と協働して資質・能力の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持・増進に向けて、ICT等を活用した学校全体の業務改善やメンタルヘルスクアを組織的に推進できるような努めている。 専門性やマネジメント力を発揮して周囲の教職員の資質・能力の向上や次世代の教職員の育成に資する働きかけを進めている。 								
										学校・家庭・地域等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携 家庭・地域社会と連携した健康づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が家庭や保護者と連携・協働することについてチームとしてみんなの関わり方を考え、推進している。 家庭・地域等に向けて、児童生徒の健康づくりに関する発信をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や保護者とのよりよい連携・協働について、学校全体で共通理解を図りながら、周囲の教職員に対し、適切に指導・助言している。 児童生徒の健康づくりの取組の質的な向上に向けて、学校全体で共通理解を図りながら、地域及び関係機関等と協働し、健康づくりを推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域及び関係機関等との連携や取組の充実に向けて、管理職及び校内の各組織と連携して推進している。 			
															教育課題に関する対応	<ul style="list-style-type: none"> 今日的な教育課題の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の方向性について背景や根拠を確認するなどして理解し、主体的な課題等に対応している。 時代の潮流を読み解き、教育の方向性を的確に捉え、理解を深めるとともに、課題等に対応するために組織の一員として貢献している。